

学生の修学支援に 資する施設整備

知の交流拠点・開かれた大学図書館



建物外観

基本情報

大学名：北海道大学
建物名：附属図書館
工期：平成22年2月～平成24年3月
構造・階数：RC・地上5階
延床面積：18,381㎡
事業費（設計費含む）：3,016,702千円



オープンエリア

整備の方向性

○開かれた大学図書館として知の交流拠点にふさわしい多世代・多機能図書館の整備

- ・図書館全体の再生計画
書架の配置や利用者と職員の動線分離、高度情報サービスのゾーニングなど、多機能で効率的な一体的計画
- ・快適な閲覧環境の提供
オープンエリアから静粛な閲覧スペースまで多様な閲覧環境の整備
情報リテラシー教育の充実と支援
ユニバーサルデザインの導入及び動線の見直しによる利用環境の改善
- ・将来変化に対応する施設
利用者の多様なニーズに柔軟に対応する空間設定
将来の蔵書数増加に備えた階高と床荷重設定

計画・設計上のポイント

○学習環境の最適化とアメニティスペース等の拡充

- ・既存図書館の改修と一部改築により、閲覧室の集約化、集密書架の導入による新たなスペースを創出し、オープンエリアなどの学習環境の最適化、多様な閲覧環境の整備、アメニティスペースの拡充など誰もが不自由なく利用できる「開かれた図書館」として図書館全体の再生整備を行った。

○附属図書館再生計画

- ・老朽化した図書館の耐震性確保及び適正な蔵書スペースの確保を行い、多機能で安全・安心な教育研究支援環境の再生を目指し、附属図書館及び図書館委員会と施設部が一体となり、「附属図書館再生計画」を策定した。

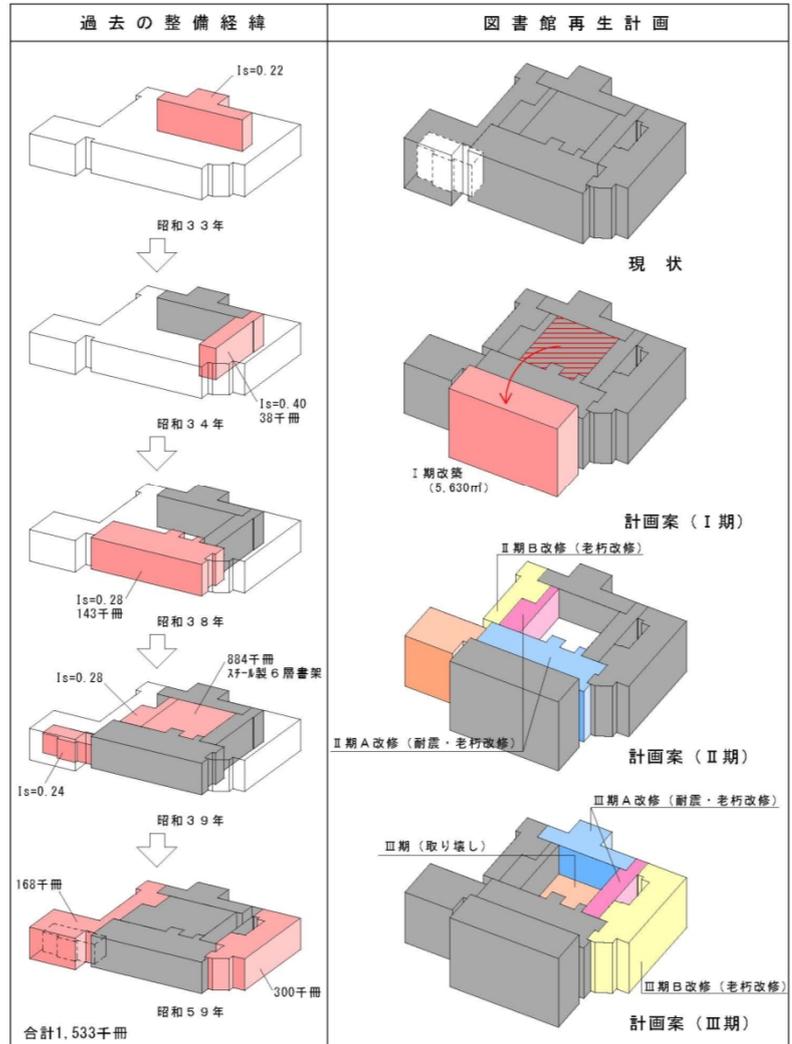
○関連分野の効率的な配置計画

- ・既存建物は、昭和33年～昭和59年まで4回に渡って整備された建物で、書庫及び情報提供機能は分散し、動線は迷路化、さらに建物間には段差があった。これらの課題解消のためバリアフリー化すると共に関連分野の効率的な再配置を行い、利用者の利便性及び施設管理の機能性向上を目指した計画とした。

○環境や景観に配慮した配置計画

- ・配置計画では、当該建物の前面がサクシュコト二川が流れる中央ローンで「憩い空間を確保するゾーン」として樹木管理区域に定められていることから、航空写真やCG（コンピュータグラフィック）を活用・評価し、景観に配慮した建物配置とした。

北海道大学附属図書館再生計画図



○交流を育む空間の整備

- ・建築基準法及び消防法上不適合な積層書架の解体部分は、1.4mの吹抜を活かし交流の場やイベントなど多目的に利用できるメディアコートとして再生した。

○将来変化に対応する蔵書スペースの確保

- ・改築した建物には、将来の蔵書数増加に備え2～5階は集密書架を配置できる床荷重設定とし、地下2階～1階部分は更に蔵書数を増やすことができるよう積層集密書架や自動化書架を設置できる階高と床荷重設定とした。

Before



積層書架



開架書架

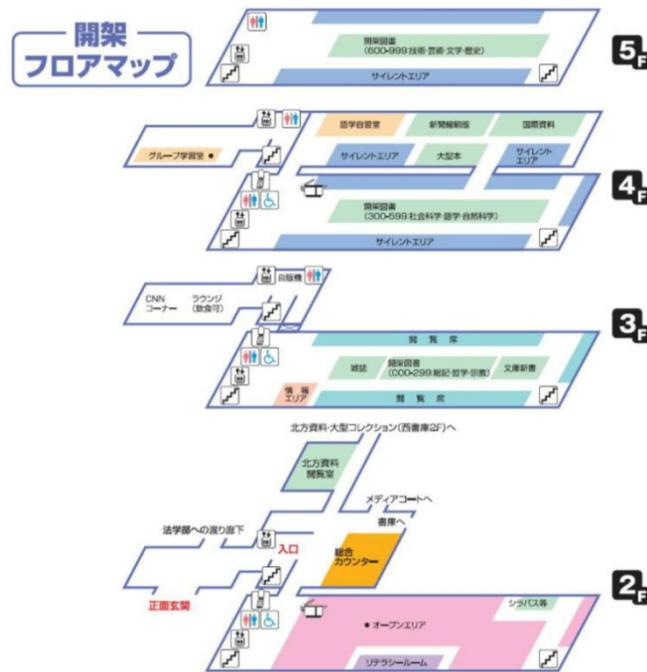


閲覧室



閲覧室

After



After



メディアコート



オープンエリア



閲覧エリア（2階）



サイレントエリア（4階）

施設整備の効果

○ラーニングコモンズ、メディアコモンズのスペースを設置

- ・会話しながら学習できるオープンエリア、情報リテラシールーム、サイレントエリア、語学自習室、個人ブースの設置など多様なニーズに対応した多機能な学習環境を整備した。また、北海道大学教育情報システム（ELMS）のパソコンを71台設置するなど、紙媒体資料と電子資料に対応できる図書館のハイブリット化を進めた。

これにより、図書館が、本学の中期目標の一つである「世界水準の人材育成システムの確立」のため「学生の学習支援機能の充実」を図っていくことの一翼を担う学習環境を提供できるようになった。

○書庫再編による収容能力向上と閲覧環境の改善

- ・閲覧座席数を576席から745席に増設し、学習用図書配架可能冊数を14万冊から17万冊に拡大した。また、入館者は整備前と比較し約25%増え貸出冊数も増加している。